

令和7(2025)年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

本校独自の個別・協働・プロジェクト型を融合した学びや探究プロジェクト型の学びを通して、生徒のキャリア発達と希望進路実現を促し、未来社会を築く基盤となる力を身につけた「人財」の育成を図る学校

2. 中期的目標

1. 安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上
地域の中学校や塾との関係を強化、及び新たな広報活動に着手するとともに、本校独自の教育の推進のもと、進学実績の向上を図る。また本校独自の教育内容の魅力も広く発信し、社会的評価の向上を図る。
 2. 多様な進路選択のためのプログラムの構築
生徒の自己肯定力の向上を図る様々な取組を企画し、生徒個々に応じた多様な進路の実現を図る。
- ①追手門教育の徹底と発信
 - ②個に応じた進路指導
 - ③中・高生徒募集の安定
 - ④安心安全な学校づくりの継続的推進
 - ⑤働き方改革の継続的推進

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析【2025(令和7)年11月実施】	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○生徒 ・昨年度に引き続き、高い評価をキープしている。中でも、「安全な学校生活」、「情報発信」、「よりよい友人関係」が上位3項目で高い評価を得ている。特に、「よりよい友人関係」の満足度が高い。 ・「よりよい友人関係」、「学習習慣指導」、「教員相談対応」、「学校行事」、「学年運営」、「成長実感」が直近3年連続で改善している。 ・学外への若年層向け情報発信のためのツールとして採り入れたInstagramが在校生にも評価されており、図らずも内部広報の充実に一役買っている。情報発信の評価が高いのは、HP上の情報だけでなく、特にクラブ活動の情報をInstagramで発信できているからだと考えられる。</p> <p>○保護者 ・保護者の学校推薦度は、今年度も高い評価となった。 ・中でも、「担任指導」、「学習習慣指導」が昨年度よりも伸びており、「安全な学校生活」、「情報発信」は安定して高い評価を得ている。 ・学校を勧める評価との相関が高い項目として、「本校満足」、「学年運営」、「受験進学指導」、「国際教育充実」、「成長実感」に正の相関が見られた。 ・生徒と保護者の評価に差が大きなものとして(生徒評価は高いが、保護者評価はそれよりも低い)「受験進学指導」、「クラブ活動」、「進路説明・懇談」があり、実際の教育現場にいる生徒と、そうではない保護者との間にどうしても受け止めの違いが生じてしまっている。情報の発信(特に内部広報)については気を配っているが、課題の一つであると捉えている。</p>	<p>○中学の入学人数が増加しているが、この規模で学校教育の質は維持できるのか。 ⇒教育数の制約から、中学は3クラス編成を想定しており、最大で90数名規模を上限と考えている。教育の質を保つため、志願者が多い場合は、不合格者を今まで以上にさざるを得ない。</p> <p>○私立高校無償化の流れは、中学入試にも影響しているのか。 ⇒無償化制度により、今まで6年間の学費負担だったが、中学の3年間の負担となり、中学から私学を選択する家庭が増えているようだ。</p> <p>○無償化により、学習面のみを理由に入学する家庭が増えないのか。 ⇒私学は「建学の精神・理念」が第一なので、入試説明会等において、今まで以上に理念・教育方針への理解をお願いしている。</p> <p>○生徒数が増えて、教員の目が行き届かなくなっているのか。探究やプロジェクトの時間があるが、進学実績は維持できているのか。 ⇒大学への合格・進学実績は、むしろ以前よりもよくなっている。特に、Ⅱ類の生徒の合格実績が飛躍的に伸びているのは、協働の学びをはじめとして、生徒の学び方を改善できているからだと判断している。 ⇒生徒同士が助け合い、大学受験に対しても、共に成長していくという校風が形成されている。</p> <p>○HPをはじめとしたネット利用での広報活動が盛んであるが、生徒の顔出し対応は大丈夫か。 ⇒ネット掲載においては、事前に本人確認を行い、同意のない生徒については掲載していない。</p> <p>○ネットの利用やAIの利用など、便利な反面、学校生活への悪影響も心配している。 ⇒規制のみでは解決にならない。保護者の方とともに、時代に即した指導の仕方を模索していく。学校では、情報リテラシーについて学内だけではなく、学外からのゲストにもお願いして、生徒の理解を深めている。</p> <p>○様々な質問をしたが、しっかりと取り組んでおられるようで安心した。</p>

4. 本年度の取組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 追手門教育による学力向上	<p>・生徒一人ひとりが自律した学習者となるよう、「個別・協働・プロジェクト型の学びとリフレクション」の融合を実現する授業改善プロジェクトを、教科主任・学習推進部・教務部が連携して推進し、全教員の授業力向上を図る。</p> <p>・現在取り組んでいる、校舎の特性を活かした「個別型・協働型・プロジェクト型の3つの学びの融合」と本校独自の探究「O-DRIVE」の発展と充実</p> <p>・創造コースにおいて様々な経験・体験から始まり好奇心や興味関心につなげ、振り返りから得た発見や気づきを基に、協働・探究の学びを通して深めていく「探究的な教科の学び」を実践</p> <p>・教科で学んだ知識や視点を活用し、プロジェクトを通して結び付け、あらゆるものの見方、考え方をし、価値観を広げる「探究プロジェクト型の学び」を実践</p> <p>・上述の内容を積極的に学内外に発信していく。</p>	<p>(1) ・研修と内部広報、採用計画も含めて、3つの学びの融合と創造コースの学び、探究授業の3つを拡張するための教員体制作りと個々の教員の授業改善の推進。</p> <p>(2) ・創造コースの学びの実践とブラッシュアップ、探究の各学年PJの充実を図る。</p> <p>(3) 探究メディアやSNSでの発信の充実で、本校の知名度を上げ、教育の取り組みやその魅力と成果を広く発信していく。</p>	<p>(1) ・教科会議、教科主任会議での研修・対話の実施 ・教科主任会主催の授業研修開催 ・授業アンケート、学校評価アンケート</p> <p>(2) ・教科横断授業の計画と実践 ・授業評価アンケート ・学校評価アンケート ・創造コース入学者数</p> <p>(3) ・HP閲覧数、投稿数 ・学校評価アンケート ・学外からの教育視察数 ・入学者・非入学者アンケート</p>	<p>(1) 授業改善においては、英語科の取り組みを手始めにカリキュラムを構築し、単元・評価・リフレクションを一体化させた授業モデルを実践段階まで具体化した。教科の枠を超えて、この実践を広げていく予定である。教科主任会を毎週定例で行い、第3観点の評価(主体性)について文科省が示したのものよりも具体化した学校目標として言語化することができた。</p> <p>(2) 創造コースおよび中学プロジェクトについては、三学年体制で年間を通して実施し、「Oから1」を創り上げる段階をやり切った。試行錯誤を重ねながら改善点を整理し継続可能な設計へと昇華させた。</p> <p>(3) HP以外に以前より導入していたInstagramにも引き続き力を入れ、在校生向けの内部広報に加えて、学外の若年層のファンを獲得できるようになった。教育視察の数は21件を数え、メディア露出も19件あり、いずれも目標を達成した。</p>
2 個に応じた進路指導	<p>・データ分析と情報収集に基づく手厚い進路指導・面談を実施</p> <p>・生徒・保護者の欲しい情報を適切に配信することにより、進路指導に対する生徒・保護者の学校への信頼の向上</p> <p>・各種進路説明会や進路イベントの充実</p>	<p>(1) 大学入試の大きな変化について生徒・保護者に周知し、生徒の第一希望の進路実現につなげる。タイムリーで手厚い面談の実施</p> <p>(2) 生徒・保護者目線での情報発信、進路の指針等の手引きの継続的発行と低学年向けのデータ作成</p> <p>(3) 各種進路説明会や進路イベントの充実</p>	<p>(1) ・生徒・保護者との面談 ・学校評価アンケート ・共通テスト受験者数 ・第一希望進路実現生徒数</p> <p>(2) ・進路の指針作成 ・低学年向け進路の指針作成 ・学校評価アンケート ・第一希望進路実現</p> <p>(3) ・生徒・保護者向け進路説明会の実施 ・学校評価アンケート ・イベント参加者数</p>	<p>(1) 大きな大学入試の変革の年であったが、進路指導部主導の進路指導が充実している状況である。一方で、生徒に生き方を考えさせるキャリア教育の面でも、学校評価アンケートで生徒・保護者共にその満足度において、目標を大きく超える成果を出すことができた。</p> <p>(2) 進路の指針は、今年度も1学期に予定通り刊行できた。かなり大部の資料であり、生徒・保護者に適切な情報共有ができた。高3における学校評価の進路の項目の評価が高い一因がここにあると考えられる。</p> <p>(3) ここ数年定着している保護者対象の進路説明会も多くの保護者に参加していただいで実施できた。また、高1・高2の生徒に高3生や卒業生からの話を聞くことができるリアル先輩ゼミのような会を数回持ったのも大きな成果の一つであり、在校生のモチベーションアップにつながった。</p>
3 生徒募集の安定	<p>・公立中学校および塾との良好な関係構築と維持を基盤とし、徹底した情宣で入試関連イベントの動員強化</p> <p>・積極的なイベント開催内容で参加者の志願度を高める。</p> <p>・HP・SNS・動画などのWebを活用した洗練された広報活動を展開。</p>	<p>(1) 公立中学・塾への訪問を通じて、良好な関係を継続する。</p> <p>(2) イベントの内容の見直しを進め、確実に動員数増・志願者増につなげる。</p> <p>(3) Webを通じた募集広報・教育広報の両面の強化。ファンベースでの広報活動の強化。</p>	<p>(1) ・公立中学訪問数 ・塾訪問数 ・本校からの出前授業実施数 ・入試志願者数・入学者数</p> <p>(2) ・入試イベント動員数 ・志願者数・入学者数 ・毎年のアンケート調査結果のイベント内容への反映</p> <p>(3) ・HPのリニューアル ・HPへの投稿回数 ・イベントや入学者・非入学者アンケートの結果 ・イベント動員数 ・志願者数・入学者数</p>	<p>(1) 公立中学校訪問の対象158校に対して、年2回の訪問を実施した。地域の地域については、追加の訪問を実施。出前授業は9校で、回数は少し抑え気味にした。塾への訪問は毎年入学者が多い塾、イベント参加者がいる教室への訪問を重視した。</p> <p>(2) 中学・高校とも、各種イベントで安定した動員数を確保できた。また、イベントの内容だけではなく、Web関連での発信内容に対する評価も向上し、この数年取り組んできたファンベースの活動が成果としてあらわれてきていると評価している。高校で466名、中学で94名の入学者を得られた。</p> <p>(3) HPでの活発な情報発信によって、さらに広くファンを獲得してきている。募集広報・内部広報・教育広報の3分野を強く意識し、すべての分野でファンを増やすことにつながっている。殊に、Instagramへの投稿を在校生や受験生向けの内容として工夫し、フォロワー数が増え、内部広報・募集広報の両面で機能している。</p>

<p>4 安心・安全な学校づくり</p>	<p>・リスクマネジメント・クライスマネジメントの体制の継続的整備 ・人権・厚生部を中心とした生徒指導問題の取り組み、生徒情報の共有方法の整備</p>	<p>(1) 新しい学びのあり方と生徒指導のあり方を対話を通して検討、必要に応じた具体的なルールの見直しや生徒会組織の変更</p> <p>(2) 法人内での制度整備、学外関係機関との継続的な連携</p> <p>(3) 人権・厚生部と各学年、SC・SSW・管理職との連携強化 ケース会議、いじめ対策委員会の積極的開催</p>	<p>(1) ・教員間・生徒間・生徒と教員間の対話 ・生徒指導部主催の教員研修の実施</p> <p>(2) ・スクールロイヤー相談 ・初等中等部との連携 ・部長・主任会での情報共有</p> <p>(3) ・問題行動・処分案件の件数 ・学校評価アンケート ・いじめ対策委員会の開催と内容の改善</p>	<p>(1) 昨年度、生徒を巻き込んだルール改善の取り組みが進んだが、変えることが目的化しないように、次のステップへの助走のために、今年度はペースダウンさせた。担当教員と課題に対する意識を共有できたので、時間をかけても、ルールに関して対話を続け、民主主義の制度の下でルールを決めていくプロセスを学ばせることを大切にしたい。</p> <p>(2) 学内の課題について、スクールロイヤー相談を積極的に行った。いじめについての研修会を開催し、いじめの定義の再確認や、いじめについての認識を変えることを前年度から継続して学んだ。また、法人内の組織とも連携を図り、適切な対応ができるようになった。また、研修講師は学外の方をお呼びすることもあったが、一方で、人権・厚生部がリードして行うこともできている。</p> <p>(3) 学校評価アンケートの「安全な学校生活」という項目では、今年度も継続して生徒・保護者共に高い評価であった。ケース会議やいじめ対策委員会の積極的開催ができるようになった。いじめ対策会議では、問題が生じたときの都度会と、定期的で開催する定例会の2種類の会議が開催されるようになり、管理職とも一体となってリスクマネジメントを行う体制が継続的に強化されてきている。</p>
<p>5 働き方改革の継続的推進</p>	<p>・土曜休業の運用体制の整備と労務管理 ・ICT等の活用による、会議・業務の効率化 ・外部組織との協働による制度改善</p>	<p>(1) 土曜休業の本格的な制度運用</p> <p>(2) ICT活用での、さらなる業務効率化、外部組織とのコラボによる制度改革推進</p> <p>(3) 新制度下でのクラブ運営の在り方の継続的検討</p>	<p>(1) ・土曜休業制度の運用 ・イベントの運用体制見直し ・継続的な課題の洗い出し ・エンゲージメント指数</p> <p>(2) ・学習推進部・教務部からの具体的な提案 ・学内における研修会実施 ・新たな教務の成績処理システムや採点システムの採用</p> <p>(3) ・NPO法人との対話 ・部活指導員・クラブ顧問としての業務の整理、部活動指導員の制度整備 ・生徒へのクラブアンケート ・エンゲージメント指数</p>	<p>(1) 土曜日の授業・補習は全くなしとなっている。イベントがある日も、一部教員に過度の負担がかからないよう、毎年制度の見直しを図っている。教員のエンゲージメント指数もさらに向上している。</p> <p>(2) 新たなシステムにより、業務の効率化が図られた一方で、新しいシステムに慣れずに、逆に時間がかかってしまう面があった。時間短縮だけを考えるのではなく、作業の効率化を図ることで、点検等ミスが発生させないための工夫ができ、ミスの減少につながった。</p> <p>(3) 生徒の評価は、アンケート結果・学校評価アンケートから満足度が高いと評価できる。NPO法人とは対話を重ね、良好な関係を継続できている。部活指導員の導入により、教員の負担軽減と部活指導をしたい教員の待遇改善の両方を実現できている。それがエンゲージメント指数の改善にもつながっている。</p>